

文の組み立て―単文・重文・複文／物語はこう展開する
(2)／描写の書き方(2)／説明のしかた(2)／文
と文の論理展開(2)／校正記号による推敲法／対話に
よる文章構成法／文と文とのつながり／カード式文章構
成法／ミニ・エッセイの書き方／書きなれノートにつく
り方／印しをつけて文をよむ／文章上達の表現よみ

受講料と入会金

五〇〇〇円

入会金

受講料

- ・ 五回分 一五、〇〇〇円(入会金共 2万円)
- ・ 十一回分 三〇、〇〇〇円(入会金共3万5千円)

講演・講座など

● 講演・講座のご依頼もご相談ください。一般向けの
講演と連続講座(三回から十回)、お子さまのための連
続十回講座などのプランがあります。

その他、左記のような文章に関する仕事もお引き受け
しますので、ご相談ください。

レポート・論文などの文章添削、小論文試験の個人指
導、宣伝パンフレット・開店案内・チラシ広告の文章添



添削と文章トレーニングの個人指導

文章通信添削講座の「案内

削、パソコンで作成する文集の版下作成、写植版下作製、
作品集自費出版のための編集・文章推敲など。
◎ お申込み方法 ― 郵便振替にて、入会金と受講料を
左記口座に納入ください。

郵便振替口座 00130-6-577697

コトバ表現研究所

※ お問い合わせ、ご相談は遠慮なく左記にどうぞ。

〒141-0022 品川区東五反田2-15-6 515

電話&FAX 03-3445-6499

コトバ表現研究所 渡辺知明

(2008.11.1)

▼ 渡辺 知明(わたなべ ともあき)一九五二年生れ、
法政大学卒業後、日本コトバの会入会。大久保忠利
に言語理論・国語教育理論を学ぶ。一九八〇年国立
国語研究所第一回日本語教育研修修了。日本コトバ
の会講師、専門学校講師。編著書Ⅱ『コトバ学習事
典』(一光社一九八八年。著書Ⅱ『放し飼いの子育
て』(一光社一九九四年)、『表現よみとは何か―
朗読で楽しむ文学の世界』(明治図書一九九五年)。
論文Ⅱ『連載・教師と子どもの文章入門』(雑誌
『国語の授業』一九八九―一九九一年)ほか。

コトバ表現研究所

渡辺知明 〒141-0022 品川区東五反田2-15-6-515

電話&FAX. 03-3445-6499 郵便振替00130-6-577697

◎ 日本語で考えて文章を書く、コトバの理論にもとづいた新しい文章指導です

- ・あなたは原稿用紙五枚くらいの文章がいつでも書けますか？
- ・あなたは用例集をツギハギした文章で間に合わせいてませんか？
- ・あなたの生徒やお子さんに文章をどう書いたらいいか指導できますか？

■ 文章上達のためにはトレーニングが必要です。

今までの文章指導は「習うより慣れろ」のやり方で、書かれた文章を添削するだけでした。文章はただたくさん書けばうまくなるものではありません。スポーツに基礎トレーニングがあるように、文章にもトレーニングの方法があります。

■ トレーニングは一人ひとりの個性に合わせます

文章の書き方はひとりひとり個性的なものです。あなたにはあなたに適したトレーニングの方法があります。あなたの長所を伸ばすことで短所をカバーしましょう。添削指導だけでなく、システム化した文章のトレーニングによって、文章表現力を高めます。

■ 一般社会人の方がたの思考力向上のために

ようになると同時に思考力もつけることができます。なお、小学校低学年でも、ご父母の協力の可能な方には、文つくりの基礎からご指導しますので、ご相談ください。

カリキュラム

● 各コースとも完全な個人指導

- ・ 基礎力養成コース——文章トレーニング入門の講座、最初に受講していただきます。
- ・ 理論文上達コース——説明文や論文を書くための文章トレーニングをします。
- ・ 文学文上達コース——エッセイや小説を書きたい人の入門のトレーニングです。
- ・ エッセイ実践コース——エッセイの展開や構成をプランから作品化まで指導します。
- ・ 自分史実践コース——生活体験を自分史として書くことを具体的に指導します。
- ・ 子どもらしく作文コース——小学五年以上のお子さまを対象に基本から指導します。

講座の内容

● 二つのコースによる充実した指導

これからの時代には考えを表現する能力がますます求められています。きちんとした文章で考え・表現する能力がだれにも必要になります。「考え」は文章に書いて表現することによって正確でち密になります。たんなる間に合わせのツギハギの文章を書くのではなく、自らの考えを文章に表現する力をつけましょう。

■ お母さんや先生がたの作文指導の手がかりのために

子どもたちに作文を書く指導をするためには、自らが文章を書く体験をする必要があります。その経験を生かして指導すれば、子どもたちが文章を書くとき、どういう点でつまづいているか理解できます。あなたも、生徒として文章を書く経験をして、その方法を作文指導に応用してみませんか。

■ お子さまの作文学習のために

いま小学校では、週八時間の国語の授業のうち三時間（小学校高学年では二時間）が「作文」にあてられています。これまでの国語の学習は、文章を読んで理解する受身のものでした。これからは、自らの考えをコトバに表現する能力が求められます。大学入試でも小論文は必修です。

■ 作文能力は思考能力です

小学校五年生以上、中学・高校生で、作文の苦手なお子さんも、文章の基礎トレーニングによって必ず書ける

a 文章添削（自由課題）——提出された文章（四〇〇字詰め原稿用紙四枚以内）に、文章表現や文字づかいなどについて赤ペンで添削したうえで、四〇〇字四枚分の手紙で問題点の解説をします。

b 文章トレーニング——ひとりひとりの文章力に合ったテキストを配布して、基礎トレーニングの課題を出します。次回はそのを返送していただきます。

- ・ 各コースとも五回の解説つきの添削指導と五回の文章トレーニングで終了します。
- ・ トレーニングの課題は、個々人の実力に応じたものです。
- ・ トレーニングの方法は、配布するテキストで説明されています。
- ・ 文章の提出と添削は一カ月に一回のペースです。

- ・ 各回の自由課題の文章は、原稿用紙四枚以内です。
- ・ 実践コースでは、原稿用紙十枚から三十枚の文章を仕上げます。

● テキスト——次のようなテキストを各コースの課題に応じて配布します。テキスト代は受講料に含まれています。（ ）内はテキストの冊数。

文章とはなにか／原稿用紙の使い方／文章構想メモのとり方／文はどう作るか／日本語の四つの文型（2）／